

# HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) を 指標とした癌治療班— 2004年班報告書—

研究班代表

福島県立医科大学医学部外科学第2 竹之下 誠一

東海大学 消化器外科 生越 喬二

## 1. はじめに

昨年の小柳・生越班に引き続き、HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) を指標とした癌治療に関する研究を行った。班員を増やし、症例数の増加が期待されている。本年度の研究計画を示す。プロトコルの詳細に関しては、W'Waves Vol.9 を参考してください。

### 1. 研究課題

HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) を指標とした癌治療に関する研究

### 2. 研究目的と予想される成果

本研究の目的は、現在、保険適応されている薬剤を使用して、どのような患者で、治療効果が認められるかなど、患者個人に適した術後化学療法の指針を、HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) を指標とした癌治療が確立できるか、オーダーメイド医療を行うことによって、どのような患者が全員生存するか、検討することを目的とする。

本研究が成功すれば、HLA 遺伝子を指標とした癌治療のオーダーメイド化の道が開かれ、治療前に薬剤治療応答性が予測でき、効果のない不必要な治療が避けられるため、国民医療・福祉への貢献や国民の QOL 向上に資するものと考えられること、延いては世界的な医学・医療への貢献を果たすことが大いに期待できる。

### 3. 本研究の特徴

- (1) 本人の HLA の遺伝子学的特徴 (グループ化) に基づいたオーダーメイド治療を目的にしている。
- (2) あなたと同じような遺伝子 (群) を持つ先輩の患者さんのデータ結果に基づいた効果ある治療法を行う。裏を返せば、効果のない、無駄な治療をやめることを目指している。
- (3) 過去20年間のデータに基づいた研究であること。
- (4) 癌治療のメニューが示された初めての研究であること。
- (5) 現在、測定するのは、HLA 遺伝子の phenotype (蛋白レベル) であるが、将来、この研究を完成させるためには genotype (遺伝子レベル) の測定が必要になってくる可能性がある。

### 4. 対象症例および研究計画

希望者に関しては、HLA タイプに基づいた治療を行う。

- タイプ1 免疫化学療法、化学療法 (注1)
- タイプ2 免疫化学療法
- タイプ3 化学療法
- タイプ4 免疫化学療法

(注1 : ステージ1B から3A までの患者は事務局から指示をする。)

対照例 : HLA 遺伝子 (phenotype ; 蛋白レベル) 測定のための採血をしなかった患者に関しては、各施設の治療方針に基づいて、なるべく一

## 平成16年度班報告

定の治療を行い対照群として、治療内容とともに登録をする（すなわち、各施設ともに、HLA

採血症例と同時期の症例が対照症例となる）。

表1 現在（平成17年4月1日）までの登録症例（HLA 採血症例）

施設名	2004.07-	2005-
福島医科大学外科1	0	0
福島医科大学外科2	0	0
群馬大学外科	0	0
東京慈恵大学外科	0	0
東京医科大学第3外科	0	0
東京医科大学霞ヶ浦病院外科	0	0
日本大学消化器外科	0	0
日本医科大学1外科	1	0
東京通信病院外科	0	0
東海大学消化器外科	21	4
岡山大学外科	0	0
熊本大学外科2	0	0
日本医科大学付属第2病院外科	0	0
財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院	3	1
計	25	5

表2 現在（平成17年4月1日）までの小柳・生越班、竹之下・生越班の登録症例（HLA 採血症例）

施設名	計	2000	2001	2002	2003	2004	2005
東海大学消化器外科	157	14	33	30	37	39	4
東京医科大学第3外科	10	0	7	2	1	0	0
福島医科大学外科2	1	0	0	1	0	0	0
日本医科大学1外科	3	0	0	0	2	1	0
東京通信病院外科	11	0	7	4	0	0	0
兵庫医科大学外科学第1	1	0	0	0	1	0	0
大分医科大学第2外科学	1	0	0	0	1	0	0
東京慈恵大学外科	1	0	0	0	0	1	0
財団法人慈山会医学研究所附属坪井病院	4	0	0	0	0	3	1
計	189	14	47	37	42	44	5